

|               |  |
|---------------|--|
| 〔 名前 〕        | 村上 真樹  |
| 〔 職位 〕        | 専任講師   |
| 〔 保有学位 〕      | 博士（芸術学）  |
| 〔 担当科目 〕      | 現代生活基礎演習、現代生活応用演習、情報処理演習、エンターテインメントビジネス論及び演習、絵画を読む、映像を読む、メディアを読む、芸術社会論、商品開発・販売 |
| 〔 専門分野 〕      | 芸術学  |
| 〔 学外活動 〕      | 美学会会員  |
| 〔 主な教育・研究業績 〕 |  |

**【著書（単著）】**

- ・『美の中断——ベンヤミンによる仮象批判』、晃洋書房、2014年

**【著書（共著）】**

- ・『パサージュ文化論』、岡林洋編著、晃洋書房、2011年
- ・『カルチャー・ミックス——文化交換の美学序説』、岡林洋編著、晃洋書房、2014年
- ・『カルチャー・ミックスⅡ——「文化交換の美学」応用編』、岡林洋・清瀬みさを編著、晃洋書房、2018年
- ・『カルチャー・ミックスⅢ——「文化交換の美学」展開編』、清瀬みさを編著、晃洋書房、2020年

**【論文】**

- ・「ベンヤミンにおける美と仮象の問題——ゲーテ『親和力』解釈を中心に」、『美学芸術学』第26号、美学芸術学会、2011年
- ・「ヴィーナスとルシファー——ベンヤミンの仮象概念についての一考察」、『美学』第240号、美学会、2012年
- ・「チャップリンとカフカ——ベンヤミンにおける救済のイメージについて」、『文化学年報』第61輯、同志社大学文化学会、2012年

**【口頭発表】**

- ・「「見つめる」ことの苦痛——ルイス・ブニュエル『アンダルシアの犬』における知覚

- の形式」、第 59 回美学会全国大会若手研究者フォーラム（於同志社大学）、2008 年
- ・「ヴィーナスとルシファー——ベンヤミンの仮象概念についての一考察」、第 62 回美学会全国大会（於東北大学）、2011 年
  - ・「非現実への帰還——シュリンゲンジーフのアタイズムとアタヴィズム」、第 67 回美学会全国大会シンポジウム（於同志社大学）、2016 年

**【翻訳】**

- ・イアン・ボイド・ホワイト「カンバーノールド——スコットランドのモデル・ニュータウン」（仲間裕子・竹中悠美編『風景の人間学——自然と都市、そして記憶の表象』（三元社、2020 年）所収）

**【競争的資金】**

- ・2013～2014 年度科研費（研究活動スタート支援）、「仮象の美学——ベンヤミンの仮象概念を軸に」（研究代表者、研究課題番号 25884077）